

# Frontliner

[フロントライナー]

株式会社日本保健衛生協会

サニタリーグループ

発行責任者/大阪本社サニタリーG

10  
2024  
October

スタッフの皆さん、日々の業務にご尽力いただきありがとうございます。

毎年、年末が近づくとつれ周囲が慌ただしくなってきます。その影響もあってか、交通事故や労働災害が発生しやすい時期でもあります。

職場のみならず家庭内でも危険感受性を高め、議論し“事故を発生させない”取り組みを行いましょう。

## 労働災害防止対策

### 災害発生の仕組み

労働災害の仕組みは、「不安全なモノ(設備、建物)などの状態」と「不安全なヒトの行動」の組み合わせにより発生します。

モノに原因がある災害が約80%、ヒトに原因のある事故が90%、その両方が組み合わさった事故が80%あると分析されています。(厚生労働大臣登録:清掃作業監督者講習テキストより抜粋)

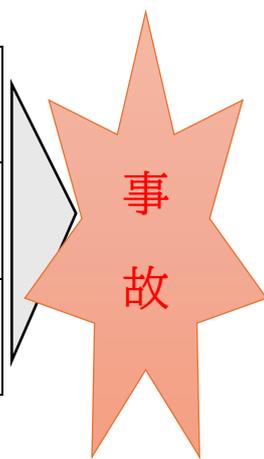
災害の原因となる“モノ”については、起因物となるモノと加害物になるモノに分けて考える必要があります。

例をあげると、脚立の上から足を踏み外し、転落して床に顔を強打しケガをした場合、起因物が脚立、床が加害物となります。

この考え方は、再発防止策を考えるうえで非常に重要になってきます。

### -災害発生のしくみ-

不安全なモノの状態	・脚立、廊下、清掃カートや自動洗浄機など
安全衛生管理上の不備	・安全衛生教育を行っていない ・作業手順書を作っていない
不安全なヒトの行動	・見間違いや、うっかりなどの人間の特性 ・作業内容を、理解していないうえで作業を行ってしまった。 ・スマホを操作しながら作業を行ってしまった。



## 具体的な安全衛生活動の推進

安全衛生管理は、経営トップによる安全衛生の方針、思い(ビジョン)を、具体的な安全衛生活動(ミッション)で実現させる取り組みが重要です。組織的、計画的な安全衛生管理と日々の活発な活動が、企業全体の安全衛生レベルを上げていきます。

具体的な安全衛生活動として、以下の6つを取り上げ、それぞれの活動の狙いを以下に示します。

- ① 危険予知活動 : 危険感受性を高め、安全行動の認識を向上させる
- ② ヒヤリ・ハット活動 : 体験情報の開示の認識を向上させる
- ③ 指差し呼称活動 : 作業時の確認行動の基本ルールの認識を向上させる
- ④ 4S/5S 活動 : 整理、整頓、清掃、清潔、躰
- ⑤ 挨拶運動 : 人間関係構築の認識を向上させる
- ⑥ 職場巡視 : PDCA のD(実行)の確認、コミュニケーション状況の把握

別表5 業種、発生月別死亡災害発生状況(令和5年/令和4年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全産業	59	62	75	50	49	64	70	81	71	45	61	68	755
	78	82	63	56	42	66	73	68	62	63	55	66	774
清掃・と畜	5	2	3	2	3	0	2	3	2	5	4	6	37
	2	4	1	1	2	6	5	3	3	1	3	4	35
R5年													
前年													

注 新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除いたもの。

※集計データは厚生労働省 HP より引用

## 実際に、どんな労働災害が予測できるか探してみましょう

### ○状況

窓ふきをしている



© (社)安全衛生マネジメント協会

左の画像を見てどんな労働災害が予想されるか考えてみましょう。

- ① 手に持っているスクイージーを下に落とし、人に当たる。
- ② 脚立を支える人がいないと、脚立ごと転倒の恐れがある。

上記以外にも、危険感受性を高め、労働災害に備えた対策を行い日々の作業方法を見直すことで労働災害は激減します。日頃より、どのような事が起こりうるか予測しながら作業をするように心がけましょう！

図:安全衛生マネジメント協会 HP より引用